

【解答例】

一

都市が、束縛からの解放や洗練された生活への希望を与えてくれるだけの、害のないものであるということ。

二

人間が機械や人工的な構造物によって自然を排除し、それによって人間自身が自然から距てられ自然の恩恵を受けられなくなったことが、都市化の本質であるということ。

三

自然に包まれながら大地を体で感じ、その恩恵を潜在的に受けとり続けることで、人間は自身の存在に対して確固たる信頼を抱いて生きていくことができるということ。

四

見知らぬ他人どうしの間にすら、互いの表情から生まれる目に見えない感情の交流があるのであり、それを否定して都市の合理性ばかりを追求することは、人間性の消失につながり、人間を物体化するに等しいと考えている。

二

一

欠点だらけの友人は、自分の嫌な部分を引き受けてくれていて、そのおかげで筆者は自己嫌悪に陥らずに済んでおり、友人に自分の生が支えられていたということ。

二

筆者も悪友も互いの欠点を熟知しているため、他人には見せられないどうしようもない側面も、見栄を張らずにさらけ出せる存在として相手を考えていたということ。

三

欠点ばかりで世間的にはだめな人間である友人だったからこそ、だめな自分が生きてこられたし、その友人と過ごした時間が、無駄こそ人間を育てるものであり、無駄なものなど何もないということを教えてくれたから。

三

注意するようだから、ほとんど間違えることはないのに、

二

助詞の使い分けは、初学者には難しく間違えるのも仕方ないが、仮名遣いは、実例を記した書物を参照しさえすれば、子どもでも理解できるものなのに、自分の弟子たちが学びもせずに書き間違いばかりしていること。

三

どのようなことも、自分が努力をしなければ、会得することは難しいだろうことよ。